

## 実践報告

# 札幌市立屯田北中学校

### (1) 研究内容

研究課題研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくりに関する研究等」

- 「性別によらない名簿」に関する取組の推進
- 支えあい、認め合う豊かな人間関係能力の育成

### (2) 実践の内容

【実践①】「性別によらない名簿」に関する取組の推進について

#### ○ ねらい

令和2年度から「性別によらない名簿」実施するにあたり、昨年度職員アンケートであがった疑問点や問題点を解決するために、「性別によらない名簿」を長年実施している他県を人権教育の視点から視察し、「性別によらない名簿」に関する取組を推進する。

#### ○ 学習内容

令和元年7月2日（火）～4日（木）に、3名（教務主任、研修部部長、人権教育担当）で福井県の中学校2校を視察し、福井県教育総合研究所で福井県の取組について学んだ。視察の視点は次の3点とした。

ア 人権教育の推進

イ 「性別によらない名簿」や体育の男女共修、校務支援システムの状況

ウ LGBT等の理解や配慮等、教職員の人権意識の醸成について

視察の概要は以下の通り。

<南越前町立南条中学校（生徒数 153 名 通常学級 6、支援学級 2）>

1)校務支援システムについて

2)「性別によらない名簿」

3)体育の男女共修

4)座席・班編成・委員会

5)健康診断の名簿と実施状況

6)人権教育



男女共修の陸上の授業



教室の座席は男女分けなし

<鯖江市中央中学校（生徒数 975 名 通常学級 31、支援学級 4）>

1)大規模校での体育の男女共修授業の見学

2)中央中学校での体育の授業について説明

3)体育の評価基準について質疑

4)体育的行事、部活動について



男女共修で水泳とマット運動の選択制

<福井県立教育総合研究所 教育相談センター>

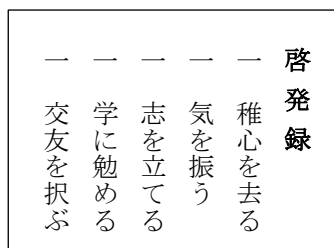
・教育センター内にある教育博物館を見学後、福井県におけるピア・サポートの実践を説明していただき、質疑応答をおこなった。

## 1) 福井県の教育

- ・ 啓発録、中学2年生での立志式

## 2) 福井県におけるピア・サポートの実践

・ 福井県では、いじめや不登校未然防止のために生徒の学級への適応感や学力向上に向け、継続性のある形で学校支援を行い、それを通して学校が自力解決力を育む支援を行うことを目的に平成26年度から3年間「学校サポートプログラム」に取り組んだ。特に、事前の調査研究で、小学校は「安心感を高める学級づくり」、中学校は「承認感を高める学級づくり」が学力を高めると分析し、ピア・サポート・トレーニングもそこに焦点を当て実施した。その実践と効果について発表を聞いた。



### 【実践②】 学校全体で計画的に取り組む人権教育

#### ○ ねらい

アイヌ文化、いじめ問題、障がい・福祉・LGBTなど幅広く人権について考える場を総合的な学習の時間、道徳、特別活動で展開することで、様々な場面で人権や命の尊さ等に対して真摯に向き合い、感じ、考える、人権感覚をもった生徒を育成する。

#### ○ 学習内容

- ・ いじめを題材とした道徳を2学期に各学年で実施
- ・ 命の尊さに関する講演を各学年で1回以上実施（交通事故被害者の方の講話、性に関する講演の中で、生命の尊重・デートDVについて等）
- ・ 総合的な学習の時間で「地域との関わり」の中でアイヌ文化について（1年）、「障がい・福祉について」（3年）学び、調べ、発表する。
- ・ 生徒会・学年協議会・各委員会での自主的な活動を促進する。（ゴミ拾いボランティア、他学年交流、いじめ防止川柳等）
- ・ 教科や道徳等を通じての人権学習（「中学生人権作文コンテスト」への応募、「子どもの権利ポスター展」への応募、等）



### 【実践③】 教師の人権意識を高める取組

#### ○ ねらい

互いの個性や多様性を認め合う学校づくりのための研修

#### ○ 学習内容

- ・ 福井県の視察から得られた「性別によらない名簿」についてのアンケートに対する答えや実践校の様子を共有した。
- ・ ピア・サポート学会主催の研修会で、本校の実践発表を紹介した。
- ・ 冬休み中に、LGBT当事者を講師にむかえ、校内研修「多様な性と性別を考える～あなたは他の誰でもない あなたの人生を生きている～」を実施し、個性や多様性を認め合う人権意識を培った。



### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

##### 【実践①】「性別によらない名簿」に関する取組の推進について

###### ○南越前町立南条中学校の視察から

・性別によらない名簿で、不便に感じているところは全くなかった。校務支援のシステム導入によって、パソコンのボタンで男女に分けられるようになっていた。座席や委員会、班編成は必要に応じて柔軟に対応していた。性別によらない名簿になって長い時間が経過しており、小学校からも混合の為、健康診断等にも抵抗感がなく、一緒に行われていた。

###### ○鯖江市中央中学校の視察から

・5クラス体育、6クラス体育という発想には驚いた。1学級の定数が少なく、体育教師の人数も多いこと、体育館が広いことなどの環境の違いがあった。体育の授業の視点が、「技能の向上」重視ではなく、「みんなで教え合う」集団づくり重視であり、視点の転換が求められると感じた。もっと上手になりたい人や技術を上げたい人、思い切りやりたい人は部活でという考えだった。それでも、体力テストの平均は非常に高く、効果を上げていると感じた。

###### ○福井県立教育総合研究所教育相談センターの視察から

・ピア・サポートを含む「学校サポートプログラム」は、教育相談センター主導で、希望した学校に指導主事自ら出向き、月数回の授業をして見せ、翌年からは学校独自で実践していた。それを研究としてまとめ検証する、ピア・サポート学会の菱田準子教授にスーパー・バイザーとして毎月来校してもらい、スーパーバイズを受ける、などの取組がされていた。

###### ○視察全体を通して

今回の視察で「性別によらない名簿」や「体育の男女共修」を実際に見て、さらに説明を聞き、質問できたことは大きな成果であった。実際にやってみながら、不具合を修正していけば、問題なくできるのではないかと思えるようになった。固定観念に囚われないことも必要である。

「性別によらない名簿」は、「性別によらない教育」なのだ実感した。形式的な名簿の形ではなく、教育全体が男女別の意識から解放され、お互いに尊重し協力していく意識の変換が必要である。長年実施していることで、男女のみならず、様々な能力の生徒と協力していくことが大切な価値観となっていた。

##### 【実践②】学校全体で計画的に取り組む人権教育

平成24年度から始め、8年目を向かえ、教育課程の中に定着してきている。

##### 【実践③】教師の人権意識を高める取組

校内研修会の参加者は「講師の思いや経験に触れるということがとても貴重な機会になった」「配付資料『心の基本的人権』と相反するような文化・風土が本当はないのか」「多様性と向き合うことは、ずっと考え続けること」という感想が聞かれ、欠席した教員にも研修部だよりで共有した。

## ② 課題

- 視察においては、視点3の「LGBT等の理解や配慮等、教職員の人権意識の醸成について」は十分に研修することができなかった。これは、視察校に該当する事例や実践がなかったためである。本校で先進的に推進していきたい。大規模校における体育の男女共修は、本校ではすでにT・T、3クラス体育なので、教科会で検討し、男女共修を進めていきたい。
- 本校では、ピア・サポート・トレーニングの一部を道徳的価値項目と照らし合わせ、道徳の時間の題材として扱ってきた。道徳の教科化にあたり、昨年度より、実施時数は削減された。道徳として実施・評価するためには、導入展開や内容等を工夫していく必要がある。本校の特色ある取組の一つとして、教育課程全体のバランス等を十分に考慮し位置付けについて検討していく必要がある。
- 小中高と連続した学びとなるように、小中高が連携した取組が更に求められる。
- ピア・サポートで培った人間関係や共感力を毎日の教科学習に活用し、主体的・対話的で深い学びを行うことで、支えあい、認め合う豊かな人間関係能力が一層育成されると考える。今後は、教科の授業の中で生かしていく工夫を行いたい。

## ③ 提言「人権教育のすすめ」

- 人権について考えることは、自分を理解し、社会について学んでいくことである。自分を大切にし、相手の立場や気持ちを理解する上でも必要な学習である。
- ピア・サポート・プログラムは子ども達が自他のことをより良く理解し、人間関係を円滑にし、学んだ知識を活用し、自発的に他者支援をすることで、相手を思いやる、温かな学校風土の醸成を目指すものである。自分を知り、他者と協力して、課題を解決する力はこれからの社会を生き抜くために、ますます必要となる。何より、子ども達が自分らしく生きられる環境が整えられる。少ない回数でも効果は期待できるので、できることから始めることをお薦めしたい。